

VI 海外大学・機関との交流  
(年次報告(平成23年度後期・24年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 紀子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00007685">https://doi.org/10.14945/00007685</a>

## VI 海外大学・機関との交流

松田 紀子

### 1. 日本学生支援機構「留学生交流支援事業（ショートステイ・ショートビジット）」

本事業は、学生の短期（3ヶ月未満）での海外派遣・受入れを推進することを目的として、平成23年7月より開始された奨学金事業である。高等教育機関には、交流校との間で短期の学生の派遣・受入れの教育プログラムを構築することが期待され、このプログラムに参加する学生に一定の奨学金が支給される。

本学では、初年度の平成23年度は8件が採択され（申請10件）、延べ130名の学生が参加、平成24年度には4件が採択され（申請9件）、延べ34名が海外14大学との交流に参加した。

### 2. ダブルディグリー特別プログラム（複数学位制度、DDP）

本プログラムは、博士課程学生（本学では創造科学技術大学院）に対して本学および相手大学それぞれの指導教員が共同で研究指導を行い、最終的には両大学からそれぞれ博士学位が授与されることを目指すものである。これは、学生にとっては、一定期間を海外の大学に滞在して直接研究指導を受け国際色豊かな経験を積む海外留学であると同時に、両大学にとっては、共同での研究指導を行うために、双方の指導教員の間でプログラム期間中はもちろん、開始前から非常に緊密な連携がとられることが必須であることから、共同研究と同様の学術交流としての意義もきわめて大きい。

当該期間（平成22年10月～平成23年9月）、本学では以下の1件が新たに締結され、平成24年10月1日現在で9件のDDPが展開している。

▶ブルガリア・ソフィア大学（H. 24. 1.）

### 3. 大学間交流協定

当該期間に、次の1件が新たに締結された（学術交流および学生交流）。

▶ハンガリー・オブダ大学（H. 24. 1.）

これにより、本学学生の交換留学派遣先が1校増加し、平成24年10月1日現在で34校となっている。

### 4. 部局間交流協定

当該期間に、次の6件の協定が新たに締結された。単年度で著しく増加した背景には、上述の「留学生交流支援事業（ショートステイ・ショートビジット）」による学生交流を推進するため、交流協定を締結した、という点が挙げられる。

▶中国・東華大学外国語学院（H. 23. 10, 人文社会科学部・研究科）

▶台湾・国立政治大学社会科学学院（H. 24. 8, 人文社会科学部・研究科）

▶アメリカ・ワシントン大学ボセル校コンピュータ&ソフトウェアシステムプログラム（H. 24. 8, 情報学部・研究科）

- ▶ニュージーランド・ビクトリア大学ウェリントン校 工学部 (H. 24. 8, 情報学部・研究科)
- ▶ベトナム・ベトナム林業大学 (H. 23. 12, 農学部・研究科)
- ▶ブルガリア・国立図書館研究・情報技術大学 (H. 23. 10, 電子工学研究所)

## 5. 国際シンポジウム・会議

日 時	内 容	参 加 校
平成 23 年度後期		
11月28日 ～29日	Shizuoka University International Symposium 2011 -Initiatives for Crossing Boundaries within Science and Technology (静岡市 B-nest にて)	ブラウンシュバイク工科大学、釜山大学、慶北大学、浙江大学、サンクトペテルブルク国立工業大学、メイヨー医科大学、ラトガース大学他
平成 24 年度前期		
7月8日 ～9日	International Conference on Nano Electronics Research and Education, IC-NERE2012 (インドネシア・バリにて、伊東学長オープニング・スピーチ)	インドネシア大学
8月27日 ～30日	インターアカデミア 2012 (ハンガリー・ブダペストにて)	オブダ大学、アレクサンドル・アイオアン・クザ大学、ワルシャワ工科大学、ソフィア大学、ゴメル国立大学他

## 6. 協定校等の往来訪

日 時	訪 問 者	往訪/来訪
平成 23 年度後期		
11月28日	ドイツ・ブラウンシュバイク工科大学 副学長・教員・国際交流担当 (学長表敬訪問)	来訪
11月28日	カナダ・アルバータ大学 Visiting Students Certificate Program (VSCP) 担当職員 (協定打合せ・VSCP 説明会)	来訪
12月5日 ～6日	インドネシア・バンドン工科大学 生命科学工学部長 (学長表敬訪問、農学部協定打合せ)	来訪
12月7日	シンガポール・国立シンガポール大学 学生5名 (国際交流センター訪問、日本語授業参加)	来訪
12月26日	スペイン・アルカラ大学 対外関係部職員 (語学研修プログラム・協定打合せ)	来訪
2月1日	中国・上海師範大学 教員・学生14名 (教育学部での学生交流)	来訪
2月8日	ベトナム・ベトナム林業大学 副学長 (学長表敬訪問)	来訪
2月23日 ～24日	タイ・タマサート大学 村井センター長・松田教員 (本学事務所の点検)	往訪

日 時	訪 問 者	往訪／来訪
2月24日	タイ・カセサート大学 村井センター長・松田教員（国際本部訪問）	往訪
2月25日	インドネシア・インドネシア大学 村井センター長・松田教員・市川国際交流課長（学長表敬訪問）	往訪
2月27日	インドネシア・ガジャマダ大学 松田教員・市川国際交流課長（学長表敬訪問、農学部・国際本部挨拶、本学事務所の点検）	往訪
平成24年度前期		
4月18日	カナダ・アルバータ大学 教職員5名（夏季短期留学・教職員研修プログラム説明）	来訪
5月31日	スペイン・アルカラ大学 対外関係部職員（協定打合せ）	来訪
7月7日	インドネシア・インドネシア大学 伊東学長・村井センター長・松田教員・伊藤国際交流課長（学長表敬訪問）	往訪
7月9日	インドネシア・ガジャマダ大学 伊東学長・村井センター長・松田教員・伊藤国際交流課長（学長表敬訪問）	往訪
7月11日	サウジアラビア・ジザン大学 教員・学生11名（浜松キャンパス研究室見学）	来訪
7月13日	上海師範大学 教員・学生17名（教育学部と学生交流セミナー）	来訪
7月19日	アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校 教員（センター訪問、人文社会科学部教員と学術交流打合せ）	来訪
8月3日	韓国・木浦大学 総長・教員（学長表敬訪問、農学部と学術交流打合せ）	来訪

## 7. その他

### 1) タイ・タマサート大学東アジア研究センターシンポジウム（H. 24. 2. 23～25）

本学のタイ事務所が置かれているタマサート大学東アジア研究センター（ランジット・キャンパス）で、International Conference 2012 “Regional Cooperation for Sustainable Future in Asia” が開催され、本学からは、村井センター長がラウンドテーブル “To promote Sustainable Future in Asia ” のパネラーとして参加し、また、松田教員が本学の教育と研究について発表を行った。

シンポジウム後には、同センター内の本学事務所を訪問し、運営状況を点検・確認した。また、本学客員教授のソムチャイ副学長と、事務所および大学間交流について意見交換をした。

### 2) インドネシア留学生同窓会（H. 24. 7. 7.）

本学においては、貴重な財産である元留学生のネットワークを構築して、本学のグローバル化（「地域の産業・文化と共生する大学を目指す」）に活かすことが、国際化の課題のひとつとなっている。その第一弾として、1960年代から今日に至るまで約150名が在籍しているインドネシア元留学生の同窓会を、ジャカルタで開催した。

当日は、元留学生 21 名（出席希望 30 名）、伊東学長、村井センター長、本学教職員 4 名に加え、在インドネシア日本国大使館谷参事官、県内企業の現地関係者にもご参加いただき、今後の静岡とインドネシアとの交流の一層の発展を進める機会となった。今後、この元留学生のネットワーク作りを、他の国にも展開する予定である。